



ROTARY CLUB OF

NARA - WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2519

2024. 8. 29

創立 1969年(昭和44年)12月13日

例会日 毎週木曜日18:00より

事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地

例会場 奈良ロイヤルホテル内

TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2024~2025年度
国際ロータリーのテーマ

2024~2025年度
地区のスローガン



持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動
Make Rotary Sustainable! Learn together Act together



2024-25年度内輪会トロフィー

国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック

RI第2650地区ガバナー
中本 勝

会長	佐川 寛一	副会長	安井 清悟	会長エレクト	杉村 仁	幹事	木村 和弘	会計	松中 隆
会場監督	岡崎 義幸	理事	寺田 信弘	理事	東山 光秀	理事	井上 直治	理事	杉村 仁
理事	川崎 祥記	会報委員長	東山 光秀						

今月は 会員増強・新クラブ結成推進 月間です

第7回(2519回)例会プログラム令和6年8月29日(木)

第1回クラブデー移動例会

「ガバナー訪問お疲れ様会」

奈良ロイヤルホテルピアホールにて

第6回(2518回) 例会報告 2024. 8. 22
ソング

「ロータリーって何だろう」

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通算 2518 回	22	1/2	14/20	5	76.2%
通算2516回修正	22	2/2	15/20	6	72.7%

会長の時間 (佐川会長)

会員の皆様、お早う御座います。最近、特に地震の話題が多いですが、皆さんは、地震の対策はどんな感じでしょうか？患者さんにも、「地震の対策はしておられますか？」と聞いてみると、8割から9割の方が「どうしたらいいんですかね？」と返答されます。

天災による地震は、4パターンありまして、1つは、阪神大震災のような活断層による縦揺れの地震。2つ目は、東北の大震災のような大陸のプレートの移動による横揺れの地震。3つ目は、阿蘇山などの火山の噴火。4つ目は隕石の落下による衝突。があげられます。

患者さんに、読書と本の収集が好きな方がおられます。東京にお住まいされていた時に、約3千冊の本を所有し保管しておられたようです。本に囲まれてお酒を飲みながら、読書をする至福の時間をつくりたいと東京に高層マンションを購入されたようです。東北の大震災の時は自宅におられたので、命が助かったと言っておられました。震災の後、高層マンションに行くと、本棚が倒れ、3000冊の本は、足の踏み場もなく、ぐちゃぐちゃになっていたそうです。

その後、親友と地震対策をしていこうとなったそうです。奈良に移り住んで、マンションには、避難の時に備えて、靴、笛、防災リュック一式、常時、ペットボトル2リットルの水6本 ワンセットを6箱を保管して、マンションの部屋の仕切りのドアは、災害時に開かなくなったら出れないので、常時オープンにしている、腰より高い所には、物を置かないように、心がけているとの事。患者さんの東京の親友から、能登の震災の時に、頭を怪我したと電話があったそうです。壁にかけていた防災ヘルメットが、揺れで、おでこに落下してきたそうです。これも教訓ですね。会員の皆様、防災ヘルメットを壁には、かけないように保管して下さい。



会長の時間(続き)

もう一つ、奉仕の話をお話します。お釈迦様のお話です。ある日、お釈迦様が、弟子達に器を持って各家を回って来るように言いました。弟子達は、それぞれ、器に、お米や豆や果物を持ち帰りました。お釈迦様は、1人の弟子の器には、何も入っていないので、「どうして今日は何も入っていないのですか?」と問いました。すると、その弟子は、答えました。「今日は、物は頂く事は出来ませんでした。頑張って回って下さいと励ましの言葉や、労いの言葉や感謝の言葉を沢山頂いて、目には見えない気持ちや言霊が器の中に、いっぱい入っております。」お釈迦様はその弟子に慈愛の笑みを浮かべたと言う事です。物質の世界=身の世界も大事ですが、気の世界も大事にする、キミガヨの世界が大事だと言う奉仕の理念に繋がるお話です。

地震の対策も奉仕も、理想を考えたら直ぐには、無理かもしれませんが、出来る時に、出来る事を、出来る範囲で、出来るだけ一生懸命に努める姿勢が大事なのではないかと思います。

最後に、本日は、佐川年度の第1回の内輪会です。植野パースト会長が幹事をしてくださいます。かなりの猛暑になりそうですが、水分補給してラウンドをお願いします。小松会員もコンペにデビューされます。頑張って下さいね。またゴルフ以外の会員も無事にラウンドが終われるように祈っておいて下さい。これで会長の時間を終わります。

ニコニコ報告

佐川寛一会長

本年度、初めての霊山寺での早朝例会。すがすがしい新鮮な気持ちにさせてくれる霊山寺です。

例会の後、佐川年度の第一回内輪会です。水分補給して、しっかり飛鳥カンツリー倶楽部でラウンドを楽しみましょう。

東山光秀会員

おはようございます。

今日は恒例の霊山寺での早朝例会に皆様ご参集いただき、ありがとうございます。

短いひとときですが、すがすがしい雰囲気味わって下さい。

木村和弘会員

早朝例会、おつかれさまです。東山管長よろしくお願います。

加藤又拓会員、丸山佳映会員

おはようございます!!

すがすがしい気分で早朝例会を迎えられます!!

東山管長ヨロシクお願いいたします。

出席表彰



■8月出席表彰■

小松 玲子会員 皆出席1年 (在会7年)

寺田 信弘会員 皆出席1年 (在会7年)

皆様 おめでとうございます



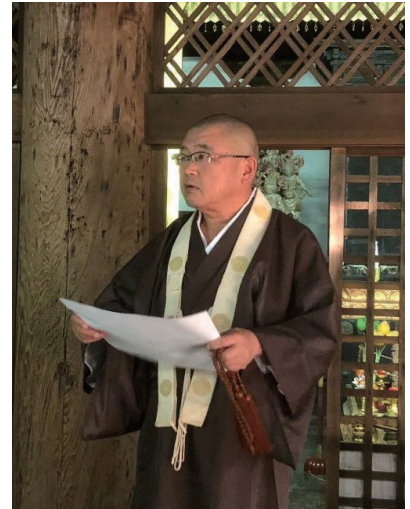
島崎藤村の「三人の訪問者」

東山 光秀 管長

小諸なる古城のほとり

藤村は明治5年に中山道馬籠宿(現・岐阜県中津川市)の旧家に生まれ、明治32年(1899)から6年間、小諸義塾という私学校で英語と国語の教師をつとめた。

「小諸なる古城のほとり 雲白く遊子悲しむ」という「千曲川旅情の歌」は、その時期の作品である。この詩は歌曲にもなって広く知られ、藤村といえば信州のイメージが強いのだが、実は東京暮らしが長かった。なかでも、麻布区飯倉片町(現・東京都港区麻布台)に大正6年(1917)から長期に暮らした。そこで日々につづった随筆集『飯倉だより』のなかに「三人の訪問者」という少し奇妙な随想がある。



第一の訪問者

訪問者といっても、“人”のことではない。藤村は、身の回りに起こる変化を訪問者、客人と感じる。

第一の訪問者は「冬」で、次のように書き出されている。

「冬」が訪ねて来た。私が待受けて居たのは正直に言うと、もっと光沢のない、単調な眠そうな、貧しそうに震えた、醜く皺枯れた老婆であった。私は自分の側に来たものの顔をつくづく眺めて、まるで自分の先入主(先入観)となった物の考え方や自分の予想して居たものとは反対であるのに驚かされた。

藤村は冬を、単調でつまらないものと思っていた。「冬」は「そんなにお前は私を見損なって居たのか」と言い、いろいろな樹木を指して見せた。ドウダンツツジは葉を落としていても、細く若い枝の一つ一つに新生の芽があり、そこには冬の焔が流れて来ている。

「冬」は「あの椿の樹を御覧」と言った。日を受けて光る冬の緑葉がかがやいている。ヤツデの花には、白に近い淡緑の色彩の新しさがある。

藤村は自分の先入主とは異なる冬を見直し、木枯らしで赤くなった娘の頬辺も、冬のプレゼントだと思う。

第二の訪問者

次に「貧」が訪ねて来た。

正直に言うと、この足繁く訪ねて来る客の顔を見る度に、私は「冬」以上の醜さを感じて居た。

しかし藤村は「貧」に、思いもよらない優しい微笑すら見つけた。

「私はお前が笑わないものだ」とばかり思っていた。稀にお前に笑われると、私は身が縮むように厭な気がしたものだ。唯、私はお前に忸れたかして、お前が側に居て呉れると、一番安心する」

そう言うと、「貧」は笑って言った。

「私に忸れてはいけない。(中略)よく私に清いという言葉をつけて、『清貧』と私を呼んで呉れる人もあるが、ほんとうの私はそんな冷かなものではない。私は自分の歩いた足跡に花を咲かせることも出来る。私は自分の住居を宮殿に変えることも出来る。私は一種の幻術者だ」

そして「貧」は「私は世に所謂『富』なぞの考えるよりは、もっと遠い夢を見て居る」と言った。

貧しさになれてしまわなければ、富んだ人より遠い夢を見ることができ、それに向かって充実した人生を送ることだろう。振り返ってみれば、自分の歩いた足跡に花が咲いていることにも気づくだろう。

第三の訪問者

次に訪ねてきたのは「老」だった。

これこそ私が「貧」以上に醜く考えていたものだ。不思議にも、「老」までが私に微笑んで見せた。

自分のそばに来た「老」の顔をよく見ると、それまで胸に描いていたものは真実の「老」ではなくて、ただの「萎縮」だったことに気づいた。

自分の側へ来たものは、もっと光ったものだ。もっと有難味のあるものだ。

しかし、この訪問者が来るようになってから、まだ日が浅い。

東山管長の法話(続き)

私はもっとよく話して見なければほんとうに斯の客のことは分からない。唯、私には「老」の微笑ということが分かって来ただけだ。どうかして私はこの客をよく知りたい。そして自分もほんとうに年を取りたいものだと思ってる

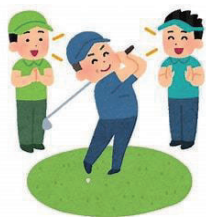
現在、健康志向が強まっている。いつまでも健康なことが望ましいのは言うまでもないが、アンチエイジングといって老いに逆らっているのは、「老」の微笑に出会うことはないだろう。藤村の「三人の訪問者」は、さらに次の訪問者があることを予見して、次の言葉で結ばれている。

また誰か訊ねてきたような気がする。それが私の家の戸口に佇んで居るような気がする。私はそれが「死」であることを感知する。おそらく私が以上の三人の訪問者から自分の先入主となった物の考え方の間違って居たことを教えられたように、「死」もまた思いもよらないことを私に教えるかも知れない.....死は不安で恐ろしい。しかし、三人の訪問者が教えてくれたように、思いもよらない微笑を見せてくれるかもしれない。



第1回内輪会

飛鳥カントリー倶楽部にて、第1回内輪会を開催しました。松中会員が優勝されました。松中会員、おめでとうございます！



第8回 (通算2520回)例会予告
例会日 令和6年9月5日(木)

第5回理事会

卓話:「奈良市西部地域の最近のインフラ整備について」

奈良市長 仲川 げん 様